

## 早稲田大学 商学部 英語 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	大問5題は昨年と同じ。読解問題4題に会話文問題1題も変更なし。昨年の会話文問題はインタビュー形式で、評論文に近い英文であったが、今年はまた普通の会話文に戻った。分量、レベルは昨年並みか。8割を目指さないといけない問題だろう(合格最低点はそこまでいかないであろうが)。記述式問題が商学部の特徴で、例年それほど難しいものではないが、今回はVの英文和訳問題が難しかった。商学部は英作文問題を含めた記述式の問題で差がつくと思われる。また、どうしても高得点の争いになるので、ケアレスミスをなくすこと(なくせと言っても、なくすことができないからケアレスなのだが…)。内容一致問題、特にT/F問題はどうしても紛らわしいことが多い。今年は内容一致問題のほうでどちらとも取れそうな選択肢が結構あった。今年のT/F問題は例年に比べると比較的解きやすかったが、それぞれの選択肢にTかFの判断を個別にしないとといけないので、差がつきやすいことは確かだ。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	会話文問題	例年通りの会話文問題に戻った。欠文問題は会話文では必須の設問形式。 Likewise「私も同様です」のような選択肢がよく出るのが商学部。知っている単語だがこの場面で使えるのだろうかと思わせるのが受験生を悩ますのだ。Pleased to meet you. 「あなたに会えてうれしいです」に対して「私も同様です」と言える。2の This is very short notice.の short notice は「突然の知らせ」の意味。知らないを選ぶことができないかもしれない。最近の商学部は会話独特の表現というより、少し難しい慣用表現が狙われるのが特徴だろう。下線部の意味を問う問題は無理のない良問。基本的な知識を問うものと前後で類推させるものの両方で成り立っている。out of the question は重要熟語。down the line は前後からどうにか類推できるかどうか? テニスで使ったりするが、それとは全然意味が違う。	標準
II	読解問題	分量、レベルとも昨年並みか。ここの下線部の意味を問うものは昨年と違い、ほぼ誰も知らない単語に下線が引かれていた。(1)は so ~ as to (do)の~の部分 が下線部なので、~が原因、(do)が結果となる。(3)の compounds は直前の and を利用して reinforces itself と同じような意味だと考える。空所補充問題は熟語 や文法などの手がかりがない。いかに正確に前後の内容を把握できるかがポイント。 (ロ)などはやや面倒。it と this が何を指すかがわからないといけない。 ただ、この空所の前後の内容は、次の文で具体的に説明されている。早稲田大 学であっても、空所や下線部の後ろがヒントになることは本当に多い。リード 文のある内容説明問題は法学部や国際教養学部ほどではないが、やはり正解を 出すのはなかなか悩ましい。やはり、読む前に選択肢にある固有名詞や数字、 時や場所を表す表現、見たことのないような表現などを押さえて、読み進めて いく途中で該当箇所だと気づくことが重要になっていくであろう。設問4は This が何を受けているかを問うているが、早稲田大学の場合は This に正解を挿 入したときに文法的に成り立つかどうかを正解の基準にしてほしい。意味だけ で考えないように!	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
III	読解問題	分量、レベルとも昨年並み。ここは英文和訳問題がある。even if ～「たとえ～だとしても」や call off ～「～を中止する」は必須熟語だが、campaign や gardens を文脈からどう訳すかも少しポイントになるだろう。ただ、例年もそうだが、手も足も出ないような問題ではない。下線部の意味を問う問題は、(3)が相変わらず直後にコロンのある。たまたまであろうが、今年の早稲田のこのタイプは後ろにコロンのあるのが本当に多い。crunch もコロンはないが、後ろの内容がヒント。humming も後ろのダッシュがあるので、やはり具体例が後ろにあるということになる。やはり知らない単語の類推は前より圧倒的に後ろが多いということになりそうだ。	標準
IV	読解問題	分量は増えたが、レベルは昨年並み。設問 1 は今までにはなかった設問形式。と言っても何か対策が必要なものであるわけではないが…。今年空所補充問題はなかなかおもしろかった。(A)の Meanwhile は「一方」などと訳すことがあるが、同時に何かが行われることを言う表現。必ずしも前後の文に対比関係があるわけではない。都市と人間が現代において同時並行的に何をしているかを述べているだけの部分だ。ちなみに空所の前にある do more with less「少ないもので多くのことをする」は効率性を述べる表現で、たとえば少ないエネルギーで効率よく工場を稼働させるような場面で使われる表現。こういう表現は簡単な単語で成り立っているが、正確に意味を取るの難しい。今後早稲田で狙われそう。instead of ～ing は前後が対照されているので、反対の内容になる。after all は文頭で使われれば、「何しろ、というのは～だからだ」の意味で、前で述べたこと理由説明になっている。単語や熟語などは、訳だけでなく、どういう論理関係で使われるかを覚えていくことが重要であることを証明するような問題であった。T/F問題がやっとここに出てきた。というか、ここにしか出てこなかった。非常に悩ましい設問形式なので、少ない方がいいと思う受験生は多いと思うが、今後商学部でまた増えるようなことがあれば真剣に対処しなければならぬと思われる。今年の問題は例年に比べると解きやすかったようだ。	標準
V	読解問題	分量、レベルとも昨年並みであろう。英文和訳問題があるが、spent を時の意味でとるか金額の意味で取るかで意外と差がつくかもしれない。前文脈やかなり後ろにある consumers driven to spend などを見れば間違わないと思われるが…。smiling の分詞構文、about の意味、a third の分数、「数字+more+複数名詞」の意味、others が other shoppers であることなど、意外とたくさんポイントがある。リード部分のある内容一致問題はかなり紛らわしい。どちらがいいか迷った受験生も多かったのではなかろうか。やはり内容一致問題やT/F問題は時間もかかるし確信も持ちにくいので、点を取るという意味では非常に重要な設問ということになりそうだ。下線部の意味を問う問題は結構難しい。scrutinise は後ろの for がヒント。動詞 A for B となっていれば、どのような意味になるかある程度類推できそう。空所補充問題の(ハ)は対応関係が見えるといい。 Some <u>find it all a little</u> (ハ). Nielsen ～ <u>deems using technology to work out shopper emotions en masse too radical for now.</u> (ニ)の blue は後ろにある depressed がヒントだ。他の早稲田の学部もそうだが、とにかく手がかりを見つける力が要求されるのは確かだ。	標準